

セーブ・ザ・チルドレン 子ども給付金 新入学サポート 2024

(イメージ)

申請時アンケート調査結果

2024年3月
公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 国内事業部

「セーブ・ザ・チルドレン子ども給付金 ～新入学サポート2024～」 申請時アンケート調査概要

【調査対象】	「セーブ・ザ・チルドレン子ども給付金 ～新入学サポート2024～」※1 申請者
【調査方法】	申請時にオンラインフォームへの回答 (オンラインでの申請が難しい世帯については一部郵送で受付)
【実施期間】	2024年1月10日～1月26日 (給付金申請時に回答、フォームへの入力の一部だった場合2月8日まで受け付けた回答もある)
【有効回答数】	1,255人※2(きょうだいでの申請の場合は、それぞれで回答。)

※1 詳細については、12ページ参照。

※2 申請フォームは①と②の2段階あり、2024年2月8日時点で両方の提出があった人数。最終的な申請者数については今後変動の可能性はある。

● 本調査は、全国を対象としては2022年から実施しており今回は3度目の実施。

2022年「子ども給付金～新入学サポート2022～」利用者アンケート調査結果(申請時・利用後)はこちらから

<https://www.savechildren.or.jp/scjcms/dat/img/blog/3843/1668668278132.pdf>

2023年「子ども給付金～新入学サポート2023～」申請時アンケート調査結果はこちらから

<https://www.savechildren.or.jp/scjcms/dat/img/blog/3843/1680152541290.pdf>

アンケート調査結果のハイライト

・アンケートは保護者または支援者(親族、教員、支援団体など)が回答。
・回答結果は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

1. 卒業・新入学準備に関し費用の用意が難しい費目について、新中1・新高1ともに**75%以上が「制服代」と回答**しており、本調査開始以降3年連続で最も回答数が多い費目※1となっている(グラフ6)。
2. 卒業・新入学準備に関し費用の用意が難しい費目について、**新中1と新高1で回答の差が最も大きかったのは「パソコン・タブレット代」**であり、新中1では17.0%、新高1では47.0%が費用の用意が難しいと回答した。次いで回答差が大きかったのは「通学費」で、新中1で4.6%、新高1で31.2%だった(グラフ6)。
3. 卒業・新入学準備にかかる費用の捻出について、新中1・新高1ともに**6割以上が「他の生活費を削る」**予定と回答した。また、**約3割が家族・親族・友人・知人からの借入やクレジットカードによるキャッシング、銀行・消費者金融などからのカードローン**を利用する予定であり、新高1ではその割合が新中1よりも高かった(グラフ7)。
4. 3.の卒業・新入学準備にかかる費用を借入などで捻出する予定と回答した世帯※2のうち、借入金額について**新高1の53.5%が「11万円以上」と回答**しており(グラフ9)、新中1の約2倍多かった。また、**返済期間については新高1の50.6%が「1年以上」と回答**した(グラフ10)。

※1 過去2年分のアンケート調査結果報告書についてはp2参照。調査対象、対象地域はそれぞれの年度で異なる。

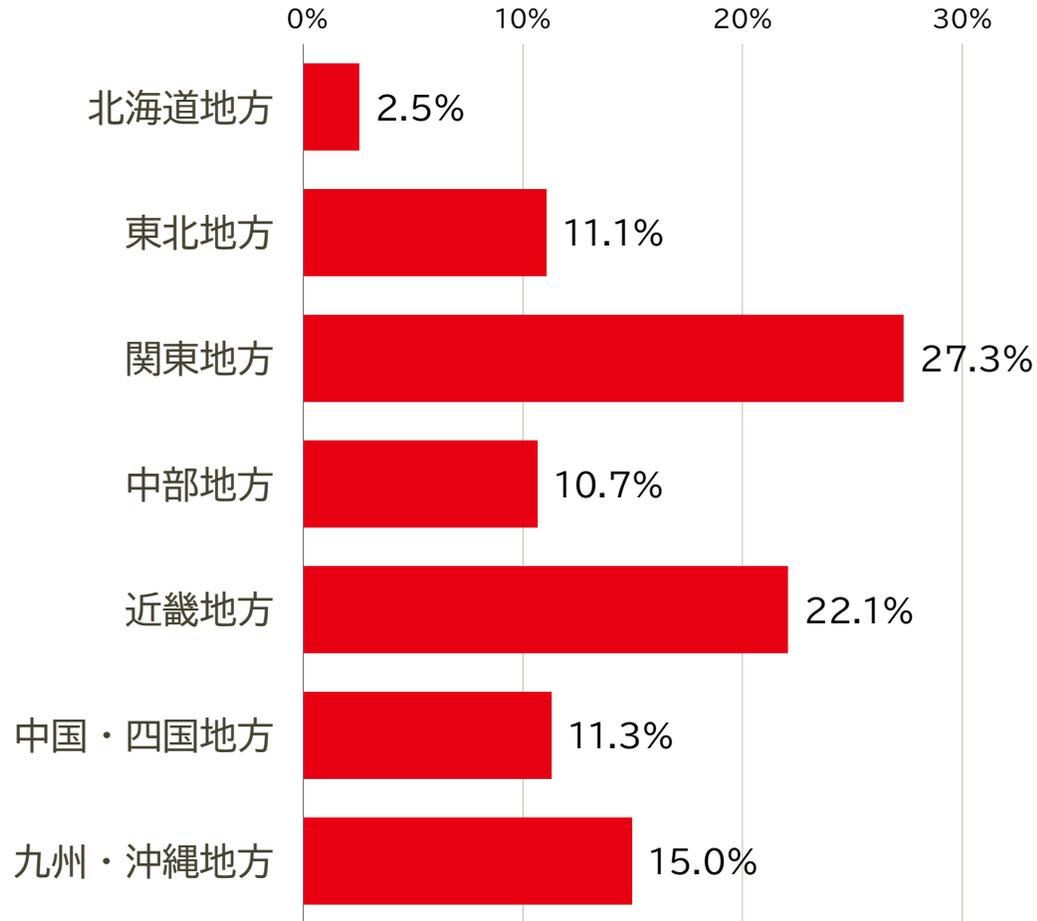
※2 卒業・新入学準備の費用捻出のために、家族・親族・友人・知人からの借入やクレジットカードによるキャッシング、銀行・消費者金融などからのカードローンのいずれかを利用する予定と回答した人のみに借入金額と返済期間を尋ねた(p9参照)。

1.申請者の属性・生活状況

申請者の居住地

グラフ1

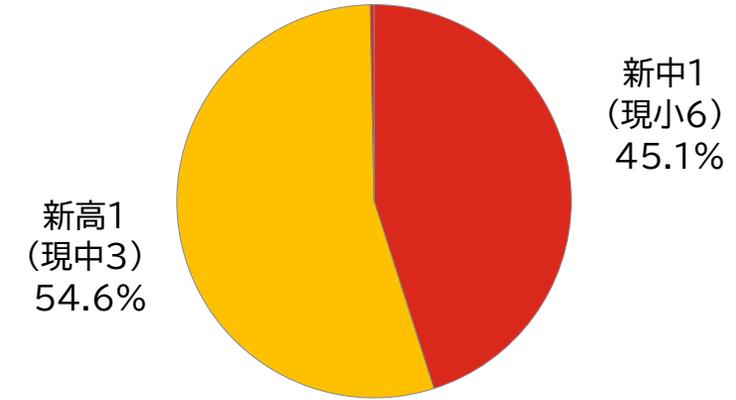
(n=1,255)



対象学年

グラフ2

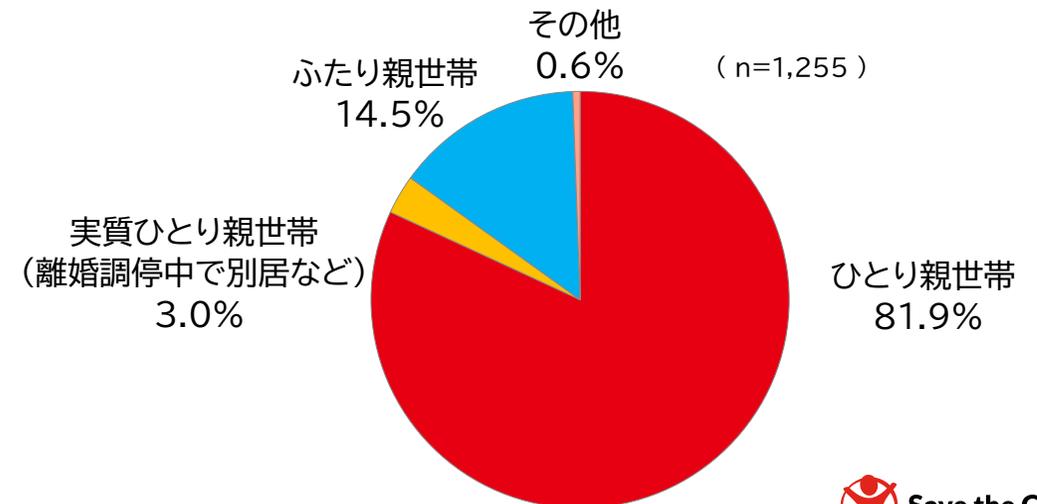
上記以外 (n=1,255)
0.3%



※上記以外:留年、高校中退後の再進学などを含む。

世帯の状況

グラフ3

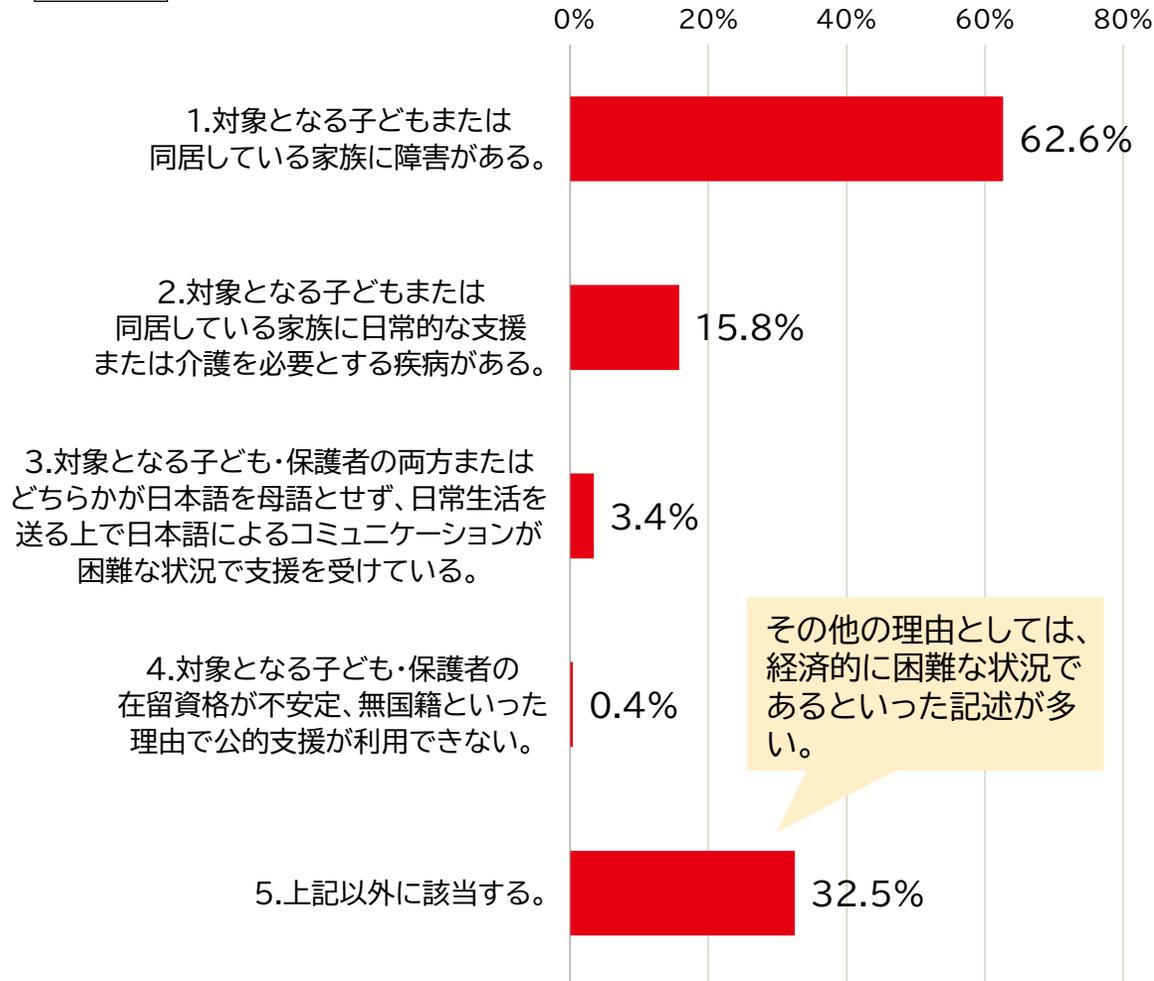


1. 申請者の属性・生活状況(続き)

Q.現在の子ども本人の生活状況について、当てはまるものすべてを選択してください。(必須・複数回答)

グラフ4

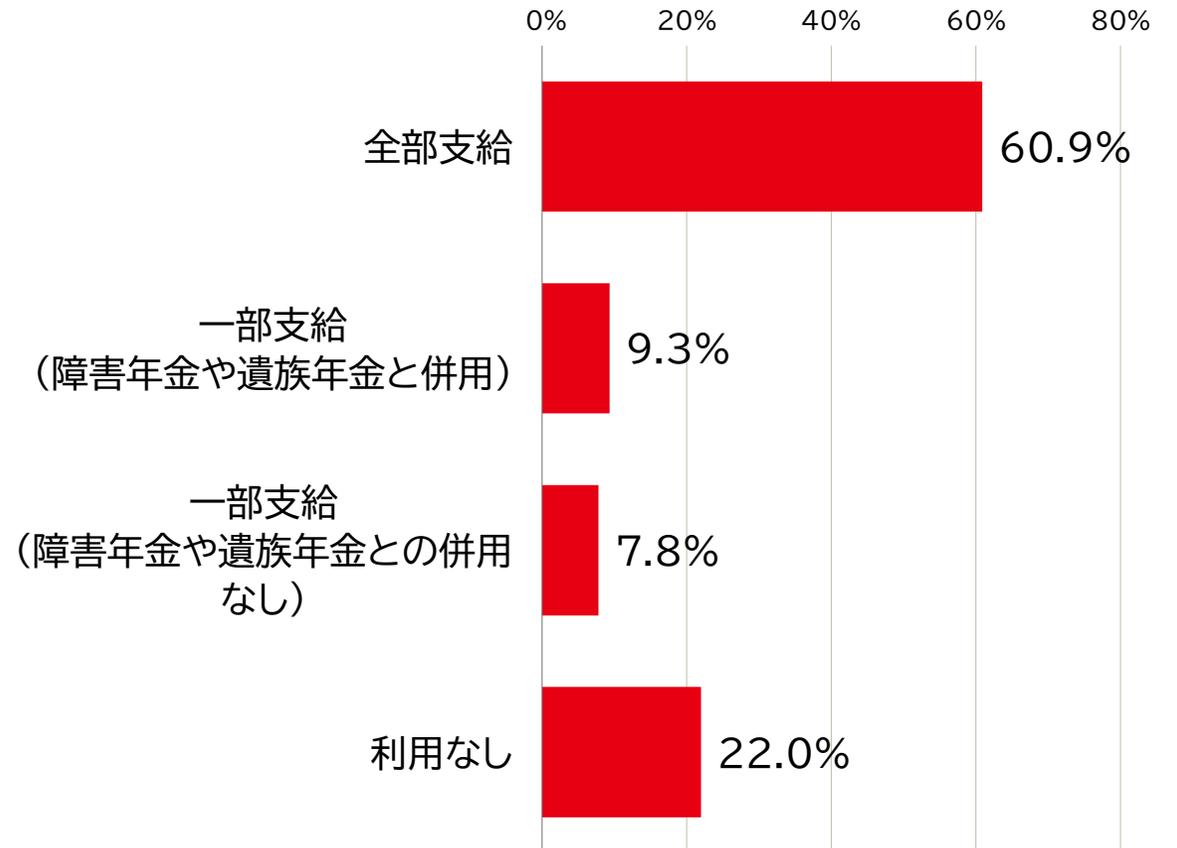
(n=1,255)



Q.児童扶養手当の利用について教えてください。(必須・単数回答)

グラフ5

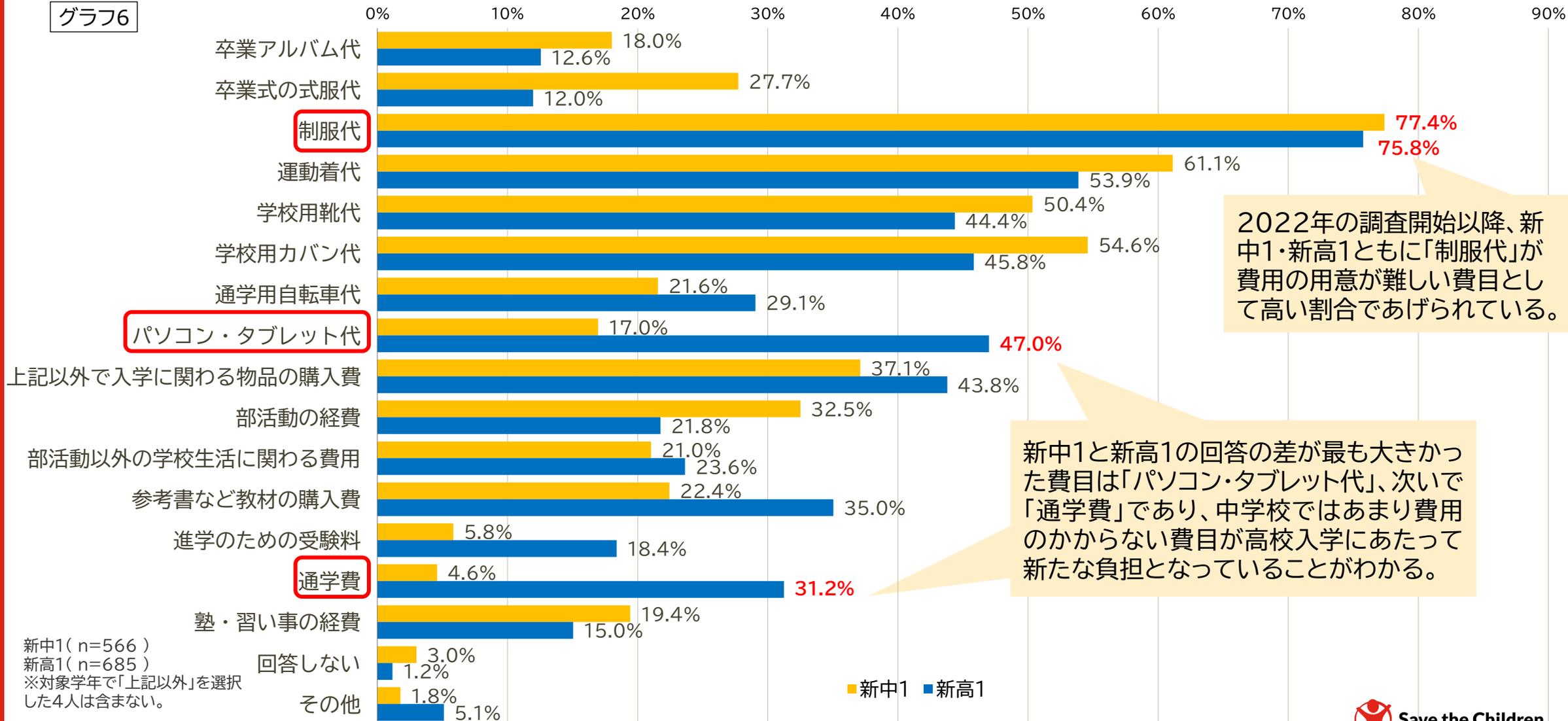
(n=1,255)



2. 卒業・新入学準備にかかる費用について

Q.どのような費用を用意することが難しいですか。(必須・複数回答)

グラフ6

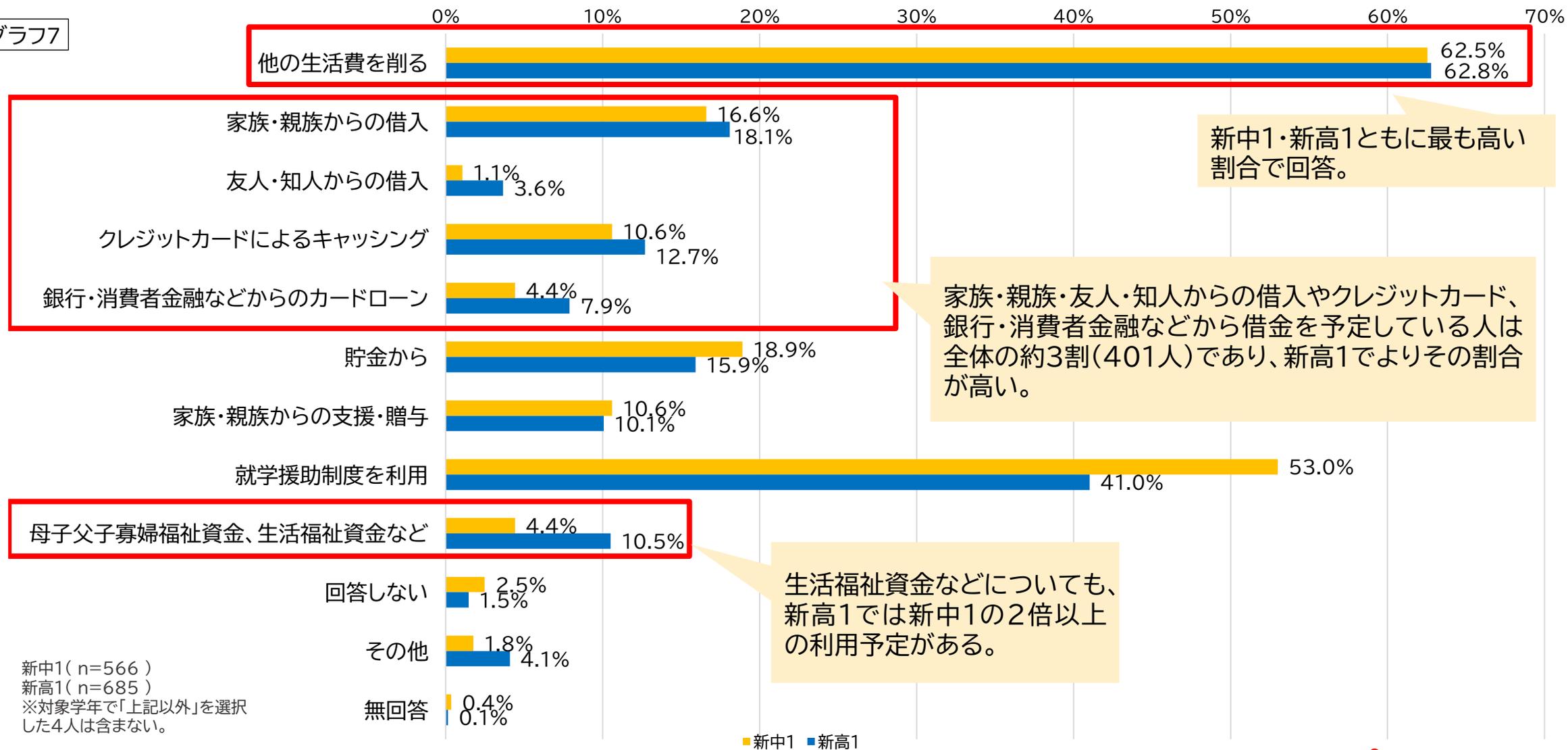


新中1 (n=566)
新高1 (n=685)
※対象学年で「上記以外」を選択した4人は含まない。

3. 卒業・新入学準備の費用の捻出について

Q.あなたの世帯では卒業・新入学準備に必要な費用をどのように捻出する予定ですか。(任意・複数回答)

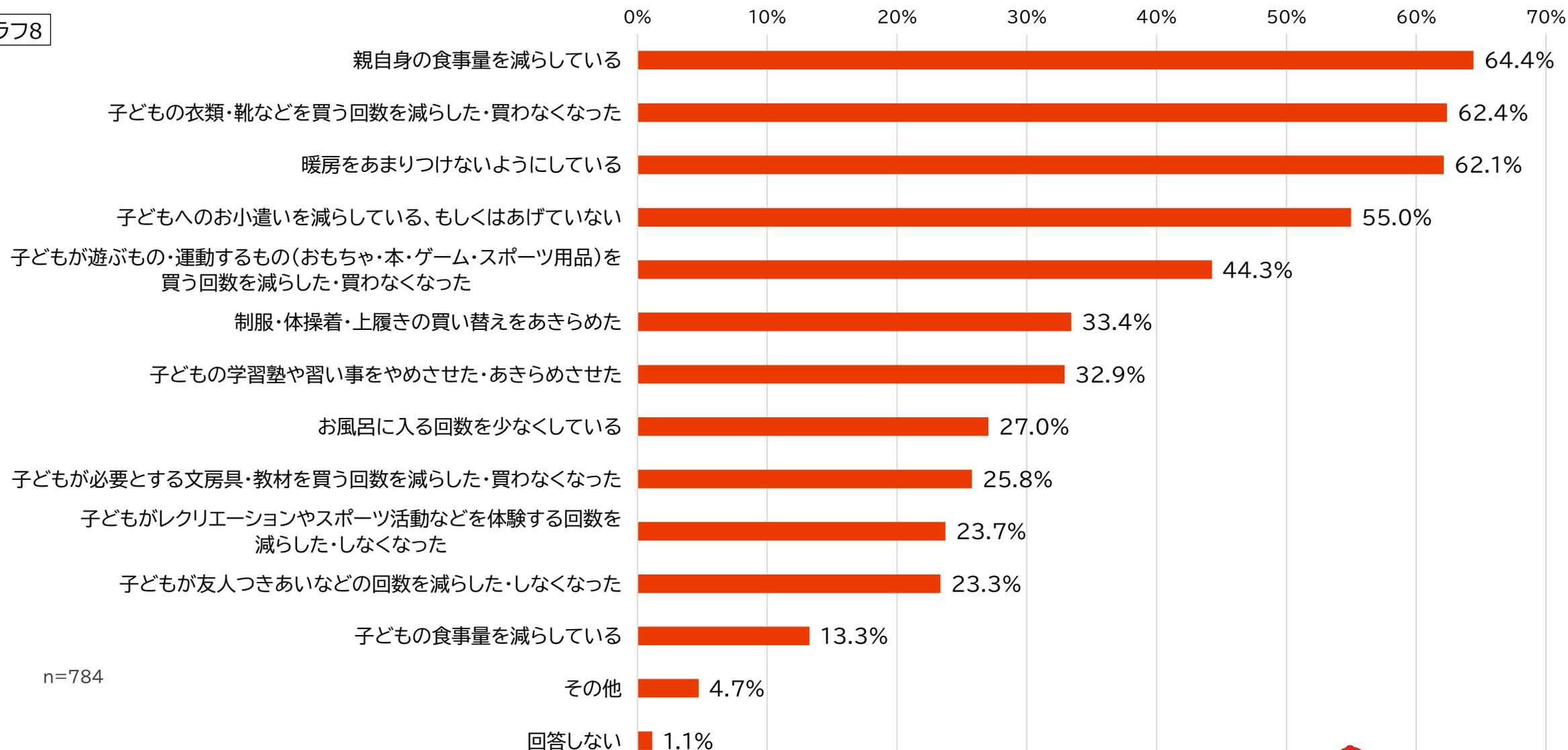
グラフ



3. 卒業・新入学準備の費用の捻出について(続き)

Q.(グラフ7で「他の生活費を削る」と回答した人のみ)どのように生活費を削っていますか。(必須・複数回答)

グラフ8

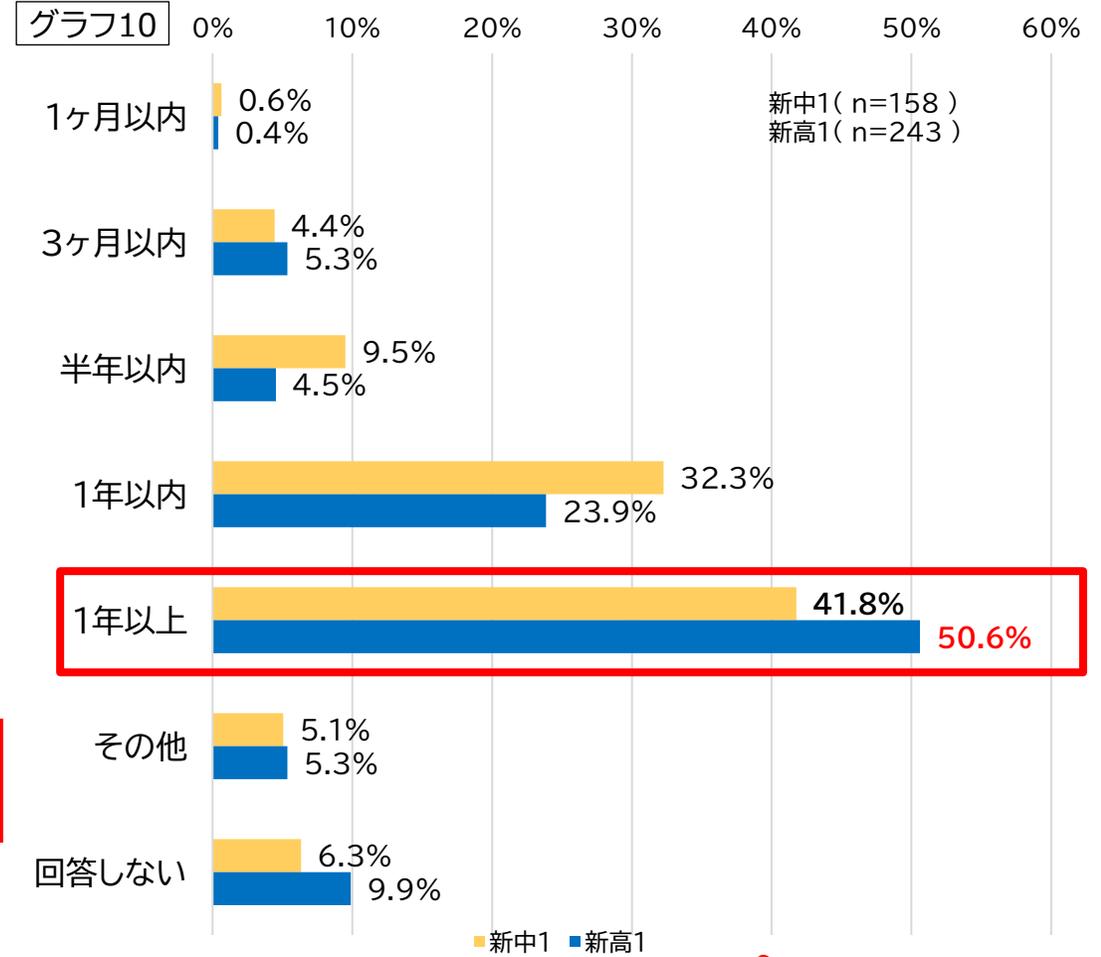
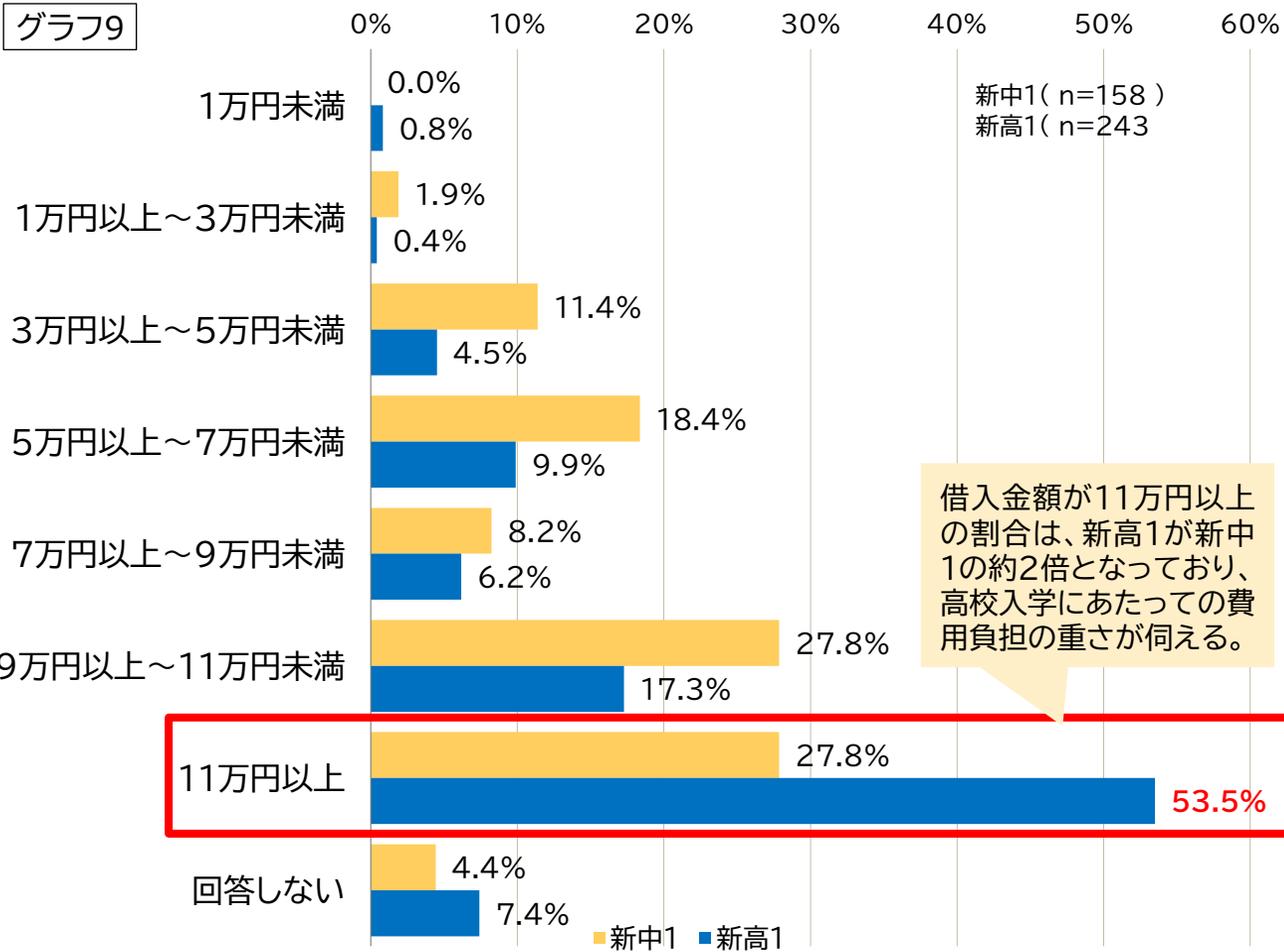


n=784

3. 卒業・新入学準備の費用の捻出について(続き)

Q.(グラフ7で家族・親族・友人・知人からの借入やクレジットカードによるキャッシング、銀行・消費者金融などからのカードローンのいずれかに回答した人のみ)卒業・入学に必要な費用についての借入金額はいくらですか。(必須・単数回答)

Q.卒業・入学に必要な費用について借入する費用の返済期間はどれくらいの予定ですか。(必須・単数回答)



4. 卒業・入学に必要な費用について不安に思っていること、またそれについて国や社会へ要望はありますか。(自由記述)

※自由記述は、原文のまま。ただし、明らかな誤字・脱字は修正したり、個人情報保護の観点などから原文から一部を抜粋して文意が変わらない範囲で編集している場合がある。()内は、回答者の属性、世帯の状況、居住地。

- 同級生達は卒業式用のスーツを買ったり袴を借りたりしているが、売り場やチラシで値段を見るととても買える値段ではない。子どもには申し訳ないが普段着で行くしかないと思っている。中学の制服の申し込みの期限があったので申し込んだが支払いができないので受け取れない。制服が買えないと中学に通えないのでとても困っている。制服や学校用品などがもっと安くなると助かる。(新中1の父、ふたり親、京都府)
- 入学時の制服はすでに発注しました。ジャケット、スカート、指定リボン、指定ワイシャツ2枚で55,000円かかり、10,000円を支払いましたが、あとは分割の予定です。本当は、指定カーディガン、指定ポロシャツが必要ですが金銭面で購入できず、運動着もまだ購入見込みが立ちません。入学費のサポートを国からも支援して頂きたいです。(新中1の母、ひとり親、宮城県)
- お金がかかり準備する事が難しい親の為に制服のリサイクル、補助金など検討してほしい。パソコン、教科書、参考書などお金がかからずすべての子どもたちに提供して欲しいです。(新高1の母、ひとり親、福島県)
- 高校入学にかかる費用がかなりかかる。高校奨学給付金もあるが、非課税世帯でも11万の給付のみ。とてもありがたいが、11万で補えない。制服代、教科書代、タブレット代など入学前に準備するものや、学年費、施設代、通学費、弁当代など毎月かかる費用で苦しい。給付金増額を切に願う。(新高1の母、ひとり親、埼玉県)
- 高校無償化といえど、制服、部活、旅行の積立、タブレット購入で多くの費用がかかり、捻出が厳しいです。せめて、ワイシャツや靴や鞆やタブレットなど指定でなければ底値で探すこともできるので、学校にもよりますが、指定品を減らしてもらっただけでも自力で節約できます。(新高1の母、ひとり親、神奈川県)
- 生活福祉の方からの借入は、子どもが借主になるので、かなり子どもの精神的苦痛になっている。まだ15歳なのでお金の心配はさせたくないが、実際不安を抱いている。(新高1の母、ひとり親、愛媛県)
- 入学後にどのくらいお金がかかるのかわからない。仮放免だと公的な就学支援が受けられず、授業料がかかると聞いています。また諸経費もかかるため、年間で大きな費用がかかると思います。私たちのように守ってくれる国を持たない人間を助けてくれる日本であつたら、この社会に心から感謝したいと思っています。(新高1の父、ふたり親、埼玉県)

5. 調査結果をうけた提言

経済的に困難を抱える世帯における卒業・新入学準備にかかる費用の家計への負担が重いことが、2022年度の調査から継続して本調査でも明らかとなった。特に制服代の負担感は継続して高いままである。また、高校入学時では中学校入学時と比べ費用の捻出に苦慮する世帯の割合が高いことが分かった。入学時の費用を捻出するために、子どもの生活や学び、成長に必要なものを買控えているという状況も見られた。借入の利用を予定している場合はその額が高額となり、長期に渡る返済が必要となっていることが浮かび上がった。

新入学にかかる私費負担を軽減するための支援制度として、就学援助制度の入学前支給や高校生等奨学給付金などがあるが、過去のセーブ・ザ・チルドレンの調査結果からは、必要としている世帯への周知が不十分であることが明らかになっており、まずは既存の支援制度を十分に周知することが必要である。そのうえで、困難な状況にある子どもの学ぶ権利を保障するため、本調査結果から特に必要とされる以下の3点を提言する。

1. 学校指定品以外の選択を可能にし、価格の見直しを

制服代、運動着代、パソコン・タブレット代など特に高額となる費目について、指定品以外の選択を可能とすることや、現在指定している学用品の価格が適正かどうか見直すことが求められる。ほかにも、家庭による購入を前提とせず学校で共有化できる学用品はないか点検するなど考えられる。これらは自治体や学校単位ですぐに取り組める内容であり、迅速な対応を求めたい。

2. 新入学にかかる費用の支援制度の拡充

新入学にかかる費用負担軽減の取り組みとして、既存の支援制度を拡充すること。中学校については就学援助制度の入学準備金の増額、高校については高校生等奨学給付金の増額など、実態に応じた支給金額の見直しが求められる。特に高校については通学費の負担が発生するため、経済的に困難な状況にある世帯を対象とした通学費の支援策を早急に検討すべきである。

3. 高校入学前の準備金の創設

国や自治体による新たな支援として、高校入学前の準備金制度を創設すること。高校入学にあたっては中学校入学以上に費用がかかり、経済的に困難な状況にある世帯では新入学に必要な費用の捻出が難しい世帯が多い。高校入学前に、こうした世帯への給付を迅速に行うことが不可欠である。具体的な給付額や方法については、文部科学省が実施している『子供の学習費調査』やセーブ・ザ・チルドレンなど民間団体の行う調査を参考にしながら、当事者の実態に即して検討することを求めたい。

子ども給付金 ～新入学サポート2024～ 概要

【実施期間】	申請受付:2024年1月10日～1月26日
【対象者】	2024年4月に中学校や高校等に進学予定の新中学1年生(定員400人)、新高校1年生(定員600人)
【申請条件】	<p>申請時に日本国内に居住し、以下の対象条件A～Cをすべてに当てはまること</p> <p>A. 現在の生活状況が①～⑤のいずれかの条件に当てはまること</p> <ul style="list-style-type: none">① 対象となる子どもまたは同居している家族に障害がある。② 対象となる子どもまたは同居している家族に日常的な支援または介護を必要とする疾病がある。③ 対象となる子ども・保護者の両方またはどちらかが日本語を母語とせず、日常生活を送る上で日本語によるコミュニケーションが困難な状況で支援を受けている。④ 対象となる子ども・保護者の在留資格が不安定、無国籍といった理由で公的支援が利用できない。⑤ 上記①～④以外で下記に該当する。 <p>ア. 対象となる保護者が家庭内暴力(DV)を受けている、または、それにより避難している。</p> <p>イ. 対象となる子どもが保護者の代わりに、未就学のきょうだいのケアを日常的に行っているために学校の遅刻や欠席が多い、あるいは成績が落ちてしまうなど学業に支障が出ている。</p> <p>ウ. 疾病・障害以外の理由で父母以外が対象となる子どもを養育しているなど、家庭環境に事情があり支援を受けている。</p> <p>エ. ア～ウの条件以外で生活上相当な配慮が必要な状況にある。</p> <p>B. 住民税所得割が非課税または児童扶養手当全部支給相当の世帯、家計急変の世帯等、障害年金または遺族年金を受給し、2022年の年間所得が当会の定める収入条件を満たす世帯</p> <p>C. 対象となる子どもの卒業・入学に関わる費用を用意することが難しいこと</p>
【給付内容】	子ども一人につき、新入学に関わる費用の一部を給付。返還の必要なし。 新中学1年生:3万円、新高校1年生:5万円
【実施方法】	セーブ・ザ・チルドレンのwebサイトやSNS、支援団体、自治体を通じて募集。申請された内容について、セーブ・ザ・チルドレン内で対象条件に基づき審査を行った上、給付金を提供(2024年3月中旬から順次給付開始)。